|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目 | 精神看護学演習 | 単位数 | １単位 | 時間数 | 15時間 |
| 担 当 者 | 近藤　大作（臨床経験23年） | 学　年 | 2学年 | 開講年次 | １学期 |
| 目的 | 精神障がい者に多い疾患の事例を通して看護過程の展開を学ぶ |
| 科目目標 | 精神に障がいを持つ対象の精神症状を理解しながら、状況に応じた精神看護を学ぶ |
| 回数 | 授業計画・内容 | 方法 |
| 1回2回3回4回5回6回7回8回 | １．統合失調症患者の看護１）看護過程の展開・情報の整理２．看護過程の展開１）情報の分析・解釈３．看護過程の展開１）看護問題の明確化４．看護過程の展開　１）関連図の作成５．看護過程の展開　１）グループ関連図の作成２）発表に向けて準備　６．看護過程の展開１）グループ関連図の発表７．看護過程の展開１）看護計画立案８．統合失調症患者の看護過程の展開まとめ　 | 講義個人ワーク個人ワーク個人ワーク個人ワークグループワークグループワーク個人ワーク講義 |
| 准看時授業内容 | 対象について理解し、それらに対する看護の概要について学んでいる。特に、精神障がい者に対する看護の基本や看護援助の方法を学んでいる。 |
| 教科書参考書 | 教科書：『系統看護学講座　精神看護の基礎　精神看護学①』医学書院『系統看護学講座 精神看護の展開　精神看護学②』医学書院参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院 |
| 評価方法 | 学習成果物、出席状況、学習態度 |
| 関連科目 | 精神看護学概論、精神看護学援助技法 |
| 備考 | １.学習成果物は、最終提出を含め6回を予定します。提出日が守れない場合は、評価の減点対象となります。 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目 | 精神看護学演習 | 単位数 | １単位 | 時間数 | 30時間（内15時間） |
| 担 当 者 | 近藤　大作（臨床経験23年） | 学　年 | 2学年 | 開講年次 | １学期 |
| 目的 | 対人関係を基盤とした援助の態度を学ぶとともに、自己洞察し治療的コミュニケーション技法を学ぶ。 |
| 科目目標 | １．精神障がいをもつ患者へのかかわり方(コミュニケーション方法)が理解できる。２．精神障がいをもつ患者に対する人間関係の発展関係理論が理解できる。 |
| 回数 | 授業計画・授業内容 | 方法 |
| 1回2回3・4回5・6回7回8回 | １．精神障がいをもつ人とのコミュニケーション　１）コミュニケーション　２）精神看護におけるコミュニケーションの方法　３）治療的（効果的）コミュニケーション、非言語的コミュニケーション　４）プロセスレコードとは２．患者―看護師関係の発展　１）ぺプロウの発展段階　２）トラベルビーの発展段階　３）川野雅資の発展過程３．精神症状のある患者とのコミュニケーション　１）幻覚妄想状態にある患者とのコミュニケーション　２）躁状態にある患者とのコミュニケーション　３）うつ症状のある患者とのコミュニケーション　４）幻聴のある患者とのコミュニケーション４．精神障がいをもつ人との関係の振り返り　１）振り返ることの意味（リフレクション）　２）プロセスレコードにおける自己の振り返り５．リエゾン精神看護１）リエゾン精神看護とその活動６．看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス８．終了試験（45分） | 講義講義講義・演習講義・演習講義 |
| 准看時授業内容 | 精神看護 |
| 教科書参考書 | 教科書：『系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔1〕精神看護の基礎』医学書院『系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔2〕精神看護の展開』医学書院 |
| 評価方法 | 出席状況、学習態度、学習成果物、筆記試験 |
| 関連科目 | 精神看護学概論、精神健康論 |
| 備考 | 精神障がいをもつ患者の特徴を理解し、どのように関わっていけばよいか、「対人関係」を学んでほしい。また、自己洞察の重要性を理解し、人間関係の構築について学んでほしい。 |